



農事普及だより

(6月号 平成28年6月1日～6月30日)

〔発行〕鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
〔編集〕西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



(平成28年5月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3ヶ月予報より)
期間の前半は、天気は数日の周期で変わるものでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いものでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。



さの細かな水管理で生育促進に努めましょう。

1. 水 管 理

- (1) 分げつ発生（茎の増加）の適温は、日最高水温30～32℃、日最低水温15～17℃、日較差15℃前後である。日平均水温が19℃以下になると分げつの発生は少なくなる。
- (2) 昼間止水・夜間かんかいを基本とし、暖かい日は浅水で水温を上昇させ、寒い日は葉先が冠水しない程度のやや深水で保温する。また、漏水防止に努め、掛け流しはしない。
- (3) 有効茎数（「青天の霹靂」は1株茎数18本程度、その他の品種は1株茎数20本程度）を確保した水田では、6月末頃から高温（平均気温が20℃以上）で晴天が続くようであれば中干しを行う。中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とする。

○水管理の目安

| 生育期 | 暖かい日の水深 | 寒い日の水深 |
|---------|----------|------------|
| 分けつけ期 | 3cm程度の浅水 | 5～6cm程度の深水 |
| 有効茎数確保後 | 中干し | |

2. 雑草防除

- (1) 初期～中期の体系処理の場合
初期剤使用後20日頃を目安に中期剤を散布する。
除草剤の散布後は、除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は落水や掛け流しをしない。
- (2) 一発剤を使用し、残草が見られた場合
残った草種に応じて除草剤を散布する。
【残った草種別に使用できる除草剤の例】
① 広葉雑草（アセビ・ホタルイ等）のみ → パサグラン剤
② ノビエのみ → クリンチャーレ剤 又はヒエクリーン1キロ粒剤 又はワニステージ1キロ粒剤
③ 広葉雑草 + ノビエ → クリンチャーパスマE液剤
※除草剤の使用基準を必ず守り、他の作物に飛散しないように注意して散布しましょう。

3. 病害虫防除

- (1) イネミズゾウムシ
移植前や移植時に防除をしなかった場合は、発生に応じて防除する。発生が多い場合は6月上旬に水面施用剤を散布する。この時期の防除でイネドロオイムシも防除できる。
- (2) 斑点カメリムシ類
カメリムシの発生源となっている水田周辺の休耕田や、カメリムシを誘引する畦畔の雑草（主にイヌ科雑草）は、開花・結実する前に刈取りを行う。また、雑草の刈取りは水稻の出穂2週間前（7月中旬頃）までに終了する。
- (3) 葉いもち
ア 取り置き苗は、葉いもちの発生源となるので、補植が終わったら、直ちに処分する。
イ 葉いもちは、早い年には6月下旬に発生がみられるので、ほ場をこまめにチェックし、病斑が見られた場合には、航空防除まで待つではなく、直ちに防除する。
ウ 復元田や、いもち病に弱い品種を作付けした場合は、葉いもちの発生が見られなくても、水面施用剤による予防防除を必ず行う。
エ 水面施用剤（オリゼメート剤、オリブライト剤、ブイグット粒剤）は、6月20日前後から6月末まで（中干し1週間前を目安）に湛水のまま施用する。施用後1週間は止水とし、落水、掛け流しをしない。その間の入水は、水戻を止めたままで行う。
※「青天の霹靂」は、農薬の成分使用回数を地域慣行の1/2以内とすることが必須なので、農薬の使用に際しては成分数に注意する。



良果を見極め、早期適正着果で高品質果実生産を！

ふじの落花日は5月14日（板柳町高増）で、平年より5日早かった。

本年は、園地によっては不受精花（カラマツ）や発育のバラツキが見られるが、開花量が多かつたため、結実はおむね良好である。摘果は果実形質を見極めながら進め、できるだけ早い適正着

果で高品質果実の生産に努める。

1. 摘 果

摘果が遅れると、玉伸びや果実品質、次年度の花芽形成にも悪影響を及ぼすので早期適正着果に努める。
果実形質の良し悪しの判断が可能となった時点から仕上げ摘果（下表参照）を行う。

○標準的な着果程度

| 品種 | 摘果の強さ (残存果実) | 着果率 (%) | 成らせ方の目安 直径2cmの成り枝 (ほぼ水平の枝) |
|--------------------------------|-----------------|------------|----------------------------------|
| 紅玉 | 3 頂芽に1果 | 33.3 | 15～16果 |
| つがる・ジョヨゴールド | 3.5 頂芽に1果 | 28.6 | 12～13果 |
| ふじ・王林・早生ふじ・さんざ・未希ライフ・さあう・トキ・金星 | 4 頂芽に1果 | 25.0 | 11～12果 |
| 北斗・デリシャス系 | 4.5 頂芽に1果 | 22.2 | 10～11果 |
| 陸奥・世界一 | 5 頂芽に1果 | 20.0 | 8～9果 |

摘果剤を散布した場合、落果は散布10日後頃から始まり、以後10～14日間続く。散布時の天候等の条件によって効果が十分に現れない場合もあるため、仕上げ摘果は遅れないように注意する。

青森県りんご商品力アップ実践運動 適正着果量確保推進期間（5月～7月中旬）

2. つる割れ防止対策（早生ふじ、ふじ）

生育の早い年は、ふじ等につる割れが多発する傾向にある。

例年、発生が多い園地ではヒオモン水溶剤の利用を検討する。また、有袋にすることで発生を軽減できるので、有袋栽培にも積極的に取り組む。

○ヒオモン水溶剤の使い方

| 品種名 | 使用目的 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 成 分 總 使用回数 | 希釈倍数 | 10a当たりの散布量 | 備 考 |
|------------|------------|---------------|---------|------------|--------|------------|--|
| ふじ 早生ふじ | つる割れ 軽減 | 満開 20～30日後 | 1回 | 3回以内 | 3,000倍 | 300～600l | 展着剤不要 有効成分：1-ノアフタレン酢酸ブリウム4.4% 人畜毒性：普通 魚毒性：A |

※使用上の注意

- ・本剤は単用散布とする。（展着剤は使用しない）
- ・散布後に葉がしおれる症状（エビナスティ）を示すが、1週間後にはほぼ回復する。
- ・高温、乾燥時の散布は避ける。新梢先端部の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。
- ・極端に樹勢の弱い樹への散布は避ける。
- ・果実肥大が抑制される場合がある。
- ・新梢の二次伸長を助長する場合がある。
- ・摘果剤（ミクロテラボン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

3. 病害虫防除

りんごの生育が平年より5日ほど早く進んでいることから、適正な間隔で農薬散布を行なうために、例年の4回目の「落花30日後頃」と5回目の「6月中旬」との間に「落花30日後頃」を新たに設けて特別散布を行う。

一部の園地で黒星病の発生が見られているので、散布量を守り、散布間隔を空けすぎない。散布予定期に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

(1) 防除体系（県りんご病害虫防除暦より抜粋）

| 回数 | 時期と散布量 | 基準薬剤名と倍数 |
|---------|--|--|
| 第5回別散布目 | ふじの 「落花30日後頃」 6月5日～6月6日頃 (420g/10a) | 炭酸カルシウム水和剤 100倍 アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はチウラム剤※ 500倍 (黒星病の発生が見られる場合は ユニックス顆粒水和剤2,000倍も使用) |
| 第6回 | 6月中旬 6月18日～6月19日頃 (500g/10a) | 炭酸カルシウム水和剤 100倍 アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はチウラム剤※ 500倍 又はジマンタイセン水和剤 600倍 又は有機銅剤※ 1,200倍 |
| 第7回 | 7月初め 7月1日～7月2日頃 (500g/10a) | ピレスロイド剤※ 又はアントラコール顆粒水和剤 500倍 又はチウラム剤※ 500倍 又は有機銅剤※ 1,200倍 又はオキシラン水和剤 500倍 |

※チウラム剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル
※ピレスロイド剤：バイスロイドEW、サイハロン水和剤、テルスター水和剤

ロディー水和剤、イカズチWDG
※有機銅剤：キノンドー水和剤80、オキシンドー水和剤80

- (2) 留意事項
ア 黒星病の発生が見られる場合は、特別散布の「落花30日後頃」に、ユニックス顆粒水和剤2,000倍も使用する。
イ トップシンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍は摘果後の果柄感染の防止効果

が高いので、腐らん病の発生が多い園地では6月中旬にいづれかを使用する。

- ウ 有袋栽培では必ず斑病・虫害点病対策として袋掛け前の「実洗い」を徹底する。
エ クワコカナイガラムシの発生の多い所では、「落花20日後頃」にも防除剤による胴木洗いを手散布で行う。また、6月下旬（越冬世代成虫の産卵前）に1回目のバンド巻きを行い、7月中旬（第1世代卵の化前）に除去する。
オ アブラムシ類の発生の多い園地では、発生に応じてネオニコチノイド剤、ウララDF、キラッププロアブルのいづれかを使用する。

4. 追 肥

追肥を計画している場合は6月末までに終える。施肥量は結実量と樹勢に応じて1樹ごとに加減する。

5. 苦 土 (マグネシウム) 欠乏対策

苦土欠乏は、土壤の酸性化に伴うマグネシウムの溶脱などによるものであり、欠乏症がみられたら、下表に従い葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップまたはグリーントップ70）を1～2回散布する。2回散布する場合は、散布間隔を7～10日あける。

| 資材名 | マグネシウム含量(%) | 水100g当たり使用量 |
|-----------|-------------|-------------|
| グリーントップ | 16 | 1,500g |
| グリーントップ70 | 23 | 1,000g |

なお、苦土欠乏は土壤の酸性化が原因なので、予防のため、土壤診断を行い、自園の状況に応じて苦土肥料を施用する。



スチューベンの開花は平年より5日程度早い見込み。
摘梢はできるだけ早く行い、樹勢に応じた摘心を心がけましょう。

スチューベンの展葉日は5月6日（鶴田町境）で平年より3日早かった。

1. 摘 梢

剪分の競合を防ぐため、摘梢はできるだけ早めに行う。

残らず新梢の目標本数は、列間2.5mの場合、スチューベン、キャンベル・アーリーとも主枝1m当たり8～10本とする。

2. 摘 心 (1回目)

1回目の摘心は開花7日前頃に行い、品種や樹勢に応じて強さを調整する。

| 品種 | 樹勢 | 摘心部位 | 副梢の取り扱い |
|-------------------|-------------|-------------|---|
| ス チ ユ ー ベ ン | 強 ・ 中 | 第1花穂の上位5枚 | ①すべての副梢をかき取り、その後発生した先端の副梢を1本残す ②上位1本の副梢を残し下位はかき取る ※①か②を選択する |
| | | | 上位2本の副梢を残し、下位はかき取る |
| キ ャ ル ベ ル ・ ア リ ー | 弱 | 第1花穂の上位3～4枚 | 上位2本の副梢を残し、下位はかき取る |
| | | 第1花穂の上位5枚 | 上位1本の副梢を残し、下位はかき取る |
| サ ニ ー ル ー ジ ュ | 弱 | 第1花穂の上位4～5枚 | 上位2本の副梢 |

おうとう

佐藤錦の収穫は平年より早まる見込み。
早めの摘果と適期防除で品質向上に努めよう！

佐藤錦の落花日は5月12日（鶴田町菖蒲川）で、平年より4日早かった。

1. 摘 果

着果量が多くて品質の低下が懸念される場合には摘果を行う。摘果は生理的落果が終わり、実止まりが確認された後（佐藤錦・南陽で横径10mm以上、紅秀峰で横径8mm以上）にできるだけ早く行い、満開後30日頃までには終える。着果数は1花束状短果枝当たり2～3果に制限する。

2. 裂果防止対策

ビニールによる被覆は、裂果の発生しやすい着色開始期（淡紅色に着色した果実が樹全体の2～3割程度となったころ）に行い、収穫終了後は速やかに取り除く。

3. 着色管理

(1) 葉摘み
果実の着色がある程度進んだ頃（おおむね収穫予定の7～10日前頃）から行い、果実に直接かぶさっている葉を軽く摘み取る。過度の葉摘みは果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不足、樹勢の低下を招くおそれがあるので、**摘み取る量は最小限にとどめる**。

(2) サンキヤッタ液剤30Sの利用
着色促進のため、サンキヤッタ液剤30Sを利用する場合は、以下により使用する。

- ・対象品種：佐藤錦、南陽
- ・処理方法：600倍液を立木全面散布
- ・処理時期：収穫開始14日前（着色が樹全体の2～3割頃）と7日前の2回
- ・散 布 量：300g/10a、単用で展着剤不要

4. 収 穫

成熟したものから順次さぐりもぎを行う。

○各品種の収穫期

| 品 種 | 満開日から収穫日までの日数 | 収 穫 期 (県南果研セ、平年) | 品 種 | 満開日から収穫日までの日数 | 収 穫 期 (県南果研セ、平年) |
|-------|---------------|---------------------|-------|---------------|---------------------|
| 紅さやか | 40～45日 | 6月下旬 | 紅 秀 峰 | 60～70日 | 7月中旬 |
| 香 夏 錦 | 40～50日 | 6月下旬 | フボレオノ | 60～70日 | 7月中旬 |
| 佐 藤 錦 | 45～55日 | 6月下旬～7月上旬 | サミット | 60～70日 | 7月中旬 |
| 北 光 | 50～60日 | 6月下旬～7月上旬 | 南 | 60～70日 | 7月中旬 |

5. 病害虫防除

（県おうとう病害虫防除暦：
佐藤錦基準より抜粋）

※農薬はおうとう園以外、
他の作物、近隣の
住宅等に飛散
させない。

- (1) 満開35日後以降、灰星病の多発が懸念される場合は、佐藤錦の収穫7日前頃にルビゲン水和剤、インダーフロアブル、パストー顆粒水和剤のいずれかを特別散布する。
- (2) 「南陽」や「サミット」などの晚生種では、灰星病対策として収穫前にアミスター10フロアブル又はブリアWDGを特別散布する。
- (3) ショウジョウバエ類の発生が懸念される場合は、満開35日後と収穫前にテルスター10フロアブル又はスカウト10フロアブルを特別散布する。

野菜

草勢にあわせたこまめな肥培管理を行いましょう。

1. 定植後の管理

- (1) 3段花房トマトトーン処理後までは、できるだけかん水を控えて、根を深く張らせる。
- (2) ハウス内の温度は昼間25℃前後で管理する。高温障害が発生しやすいため、天候によりサイド換気や肩換気を行う。
- (3) 気温が低下する日や夜間はサイドを閉め、保温に努める。夜間は14℃以上を目標とする。6月中旬以降、最低気温が14℃以上になれば、夜間でもサイドを開放する。

2. 着果の促進

- (1) トマトトーン処理はなるべく午前中に行う。4月下旬～5月上旬定植の場合、2段花房～3段花房は80～100倍、4段花房は110～120倍の濃度で多め（1.5cc程度）に処理する。
- (2) 1～4段花房は4番花がキワレ、5段花房以降は3～4番花がキワレの頃に行う。散布回数は1花房1回とする。

***** 楽剤散布は適期に！ *****

3. かん水と追肥

- (1) 試しかん水は、2段花房のトマトトーン処理後に1株当たり1kg程度を目安に行うが、草勢が強めの場合はトミー液肥ジャンボ（500倍）を加用する。
- (2) 本格的なかん水と追肥は、3段花房の開花以降とし、順調に活着したほ場では、3段花房が概ね50～70%開花（台木B/パリア）した頃から始める。ただし、活着が遅れたほ場や草勢が衰えている場合は3段開花始の頃に行う。
- (3) 1回当たりの追肥量は、3日に1回の場合は、窒素成分0.5kg/10a以内（トミー液肥グリーンで現物0.3kg/10a以内）、2日に1回の場合は、窒素成分0.3kg/10a以内（トミー液肥グリーンで現物5kg/10a以内）とする。

4. 摘 果

- (1) 3段花房トマトトーン処理後に1段果房を一斉に摘果する。奇数段は3果、偶数段は4果になるよう摘果する。
- (2) ただし、草勢が極端に弱い場合は、2段花房トマトトーン処理後1～2果程度に着果制限する。

5. 病害虫防除

- (1) 灰色かび病が発生しやすくなるので、葉先枯れ（カリ欠乏症）の予防や花カスを取り除くとともに、ハウス内の換気と薬剤による予防防除に努める。
- (2) アザミウマ類の発生が多くなるので、ほ場周辺のクローバー等を開花前に除草するとともに薬剤による防除を行つ。

メロン

計画的な整枝作業とこまめな温度管理に努めましょう。

1. 温度管理

定植後は最高気温28～30℃、開花期は**最低気温12～15℃**を目安に、トンネルの開閉などでこまめな温度・湿度管理を行う。

◎夜間の閉め切りは厳禁！

→軟弱徒長→茎葉の伸長に根の伸長が追いつかない→葉の老化を早める→病害の発生

2. かん水と追肥

- (1) かん水は**着果確認後（鶏卵大の頃）**から着果2週間後頃までに行う。1回のかん水量は、株当たり4リットルが目安となるが、**土壤水分により加減する**。
- (2) 草勢（つるの立ち上がり、葉色、孫づるの伸長）を見ながら、追肥を行う。10a（500本）あたりN成分で1～2kg。
◎開花期のかん水は厳禁！
→温度上昇→花粉の出が悪い→ミツバチ来ない→花止まり悪い→病害（果実）

3. 整枝と摘心

- (1) 結果枝（孫づる）の摘心
・弱勢の場合：着果節位1～2節上ける。孫づるの葉1枚を残し摘心する。
・適勢の場合：開花前後に孫づるの葉1枚を残し摘心する。
・強勢の場合：開花予定日の3～4日前に孫づるの葉1枚を残し摘心する。
- (2) 結果枝以外の整枝
・22～23節で子づるを摘心する。15～20節の孫づるを除去する。
※着果～着果10日までに終了する！
◎孫づる、ひ孫づるの繁茂を抑える
→風通し良い→ネットの形成良好→病害虫の発生低減

大豆

雑草防除と中耕・培土をしっかりと行いましょう。

1. は 種

- (1) は種量は「おおずず」で7kg/10aを基準とする。
- (2) は種直後の多雨は、出芽率、初期生育の不良を招くので、気象条件に注意しながら作業する。
- (3) は種作業は6月10日前までに終えるようにする。やむを得ずは種が遅れる場合は、畦幅や株間を詰めては種量を増やす。

2. 雜草対策

- (1) 土壌処理剤
ア 土壌処理剤は、ほ場表面の水分が低いと効果が劣るので、は種後速やかな散布が望ましい。
イ 出芽した雑草には効果がないので注意する。
- (2) 茎葉処理剤
ア イネ科雑草用の茎葉処理剤は数種類あるが、薬剤により効果が異なるので発生状況に合わせて選択し効果的に使用する。
イ 広葉雑草用に使用できる茎葉処理薬剤は1種類だけであり、散布回数も1回となっているので、発生状況に合わせて効果的に使用する。
- (3) 中耕・培土
1回目：本葉2～3葉期 初生葉のつけ根まで軽く土寄せする
2回目：本葉5～6葉期 第1本葉のつけ根まで土寄せする

農作業事故に注意しましょう！

「農作業は急がず、慌てず、慎重に！」

小麦

小麦赤かび病の予防に努めましょう。

1. 病害虫防除

- (1) うどんこ病、赤さび病の早期発見に努め、発生初期での防除に努める。薬剤は下葉にも十分付着るように散布する。
- (2) 赤かび病は、開花期から乳熟期にかけて、気温が高く湿潤な天気が続くと発生が多くなる。赤かび病に感染すると収量や品質が低下するばかりでなく、赤かび病のかび毒（デオキシナレノール）が付着した小麦を食用にすると、下痢や嘔吐などの中毒症状を起こす場合があるため、出荷することができない。

赤かび病の防除は、開花始め～開花期に1回目、その後2回目の防除を行う。

2. 収穫作業

- (1) 「ネバリゴシ」は出穫後46～50日、出穫後積算温度80～95℃、「キタカニコムギ」は、出穫後50～55日、出穫後積算温度900～1,000℃、子実水分25%を目安とする。
- (2) 「キタカニコムギ」は穂発芽しやすいので、天候したいでは水分30%の刈り取りが必要になる。この場合は速やかに乾燥機に張り込み、水分25%までは送風温度を40℃以下にして品質低下を防ぐ。

花き

適正な温度管理により高品質な花きの生産に努めましょう。
土壌診断に基づいた施肥設計で、バランスの良い土づくりに努めましょう。

キク

1. 定植前後の管理

- (1) 10月出荷の作型は、6月中～下旬がさし芽の時期となる。
- (2) 插し穂は、長さ・太さが揃ったものを用いる。插し芽間隔は、箱育苗の場合2cm×2cm程度、プラクトレイの場合128穴～200穴のものを用いる。
- (3) 定植の数日前に定植床に十分かん水し、插し芽苗の発根が1～2cmのときに定植する。定植後は、軽くかん水する。
- (4) 定植後は、日中25℃以下を目安にハウス内温度を管理する。

2. 病害虫防除

白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類の早期発見・早期防除に努める。

トルコギキョウ

1. 定植作業

- (1) 10月出荷作型の定植は、6月上～中旬が適期である。
- (2) 老化苗はロゼットの原因になるため、根の伸び具合を確認し、本葉が4枚展開までのものを使用する。
- (3) 高温が続く場合には、定植1週間前から遮光率40%程度の遮光資材でハウスの屋根面を被覆し地温を下げておく。光線不足による軟弱徒長を防ぐため、活着を確認したら被覆資材を除去する。

2. 定植後の管理

- (1) 発芽までは乾燥させないように管理する。
- (2) 気温が25℃以上になると生育の停滞やロゼットの要因となるので、換気等温度管理を徹底する。
- (3) 品種によって分枝が低節位から発生する場合があるので、草丈が25cm前後になったら、早めに地際から20cm程度までの側枝を摘み取り、主枝の伸長を促す。

3. 病害虫防除

灰色かび病、アブラムシ類、アザミウマ類の早期発見・早期防除に努める。

土づくり

施設栽培のほ場では、肥料成分の過剰蓄積が見られるため、土壌診断に基づく適正な施肥を行う。

5～8月は「農業危険防止運動」実施期間です

- 安心な農産物生産のため、農業使用状況を必ず記帳しましょう。
- 農業使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農業登録情報」を確認しましょう。
- 短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農業は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。

【農業の相談はこちらへ】
農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター「豊明館」となります。
午前9時から午後5時、☎22-2111（役場産業観光課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>